



デザイナー
原布慈子氏



リノベーション事業部
リセールグループ
サブマネージャー
佐々木洋尚氏

床付近にガラス設置
物件の間取りは5LDK+WIC。広さは約150平米。最大の特徴は、玄関正面にレイアウトした約2畳の茶室だ。薄いグレーのフィルムを張った横約850mm×縦約1800mmの縦長のガラスとブラックスの左官材のモールテックスが空間をモダンに仕上げている。原氏は「『なんだろう』とのぞきたくなるような効果があります」と話す。



◀ダイニングの背面には茶室の壁材と同じうぐいす色の珪藻土を用いたアートパネルを飾った



▶下階には約15畳の寝室を配置。セカンドリビングとして、また寝室を分割して子供部屋や書斎、趣味部屋などライフスタイルに合わせて部屋を仕切ることができる可変性を持たせた



◀洗面の下には石のタイルをさりげなく張った

床付近にある横約1400mm×縦約600mmの横長のガラスもユニークな設計だ。茶室の横にある階段の下から見上げると、ガラス越しに茶室をのぞくことができる。また、茶室に座った時に視線が抜けないという効果もある。

「茶室は約2畳の広さで四方を囲まれているため、視線が抜けない狭い空間でした。床付近にガラスを設けることで、座った時に視線が抜けま

グレーのガラスで和モダンに

す。風景として切り取っても面白いと思い、横長のガラスにしました」

(原氏)

同物件は物件全体がゆるやかに和の雰囲気です。例えば、ダイニングの背面には茶室の壁材と同じうぐいす色の珪藻土を用いたアートパネルを飾った。また、リビングにはスモークグレーのフロアリングを採用するなど、和の雰囲気にかけている。

同物件は物件全体がゆるやかに和の雰囲気です。例えば、ダイニングの背面には茶室の壁材と同じうぐいす色の珪藻土を用いたアートパネルを飾った。また、リビングにはスモークグレーのフロアリングを採用するなど、和の雰囲気にかけている。

「和をほんのり散りばめて関係性を保たせています」
下階には約15畳の寝室を配置した。セカンドリビングとして、また寝室を分割し子供部屋や書斎、趣味部屋などライフスタイルに合わせて部屋を仕切ることができる可変性を持たせ、暮らしに自由度を残した。佐々木氏は「こうした設計にすることで、大家族だけでなく夫婦二人で住みたいところから茶室に行き着きました」と話す。

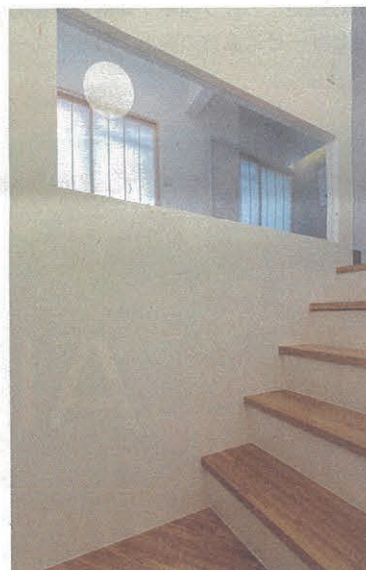


テーマは「茶室のある暮らし」。そんなユニークなテーマの物件を販売するのは、リノベーション事業を手掛けるニューユニークス(東京都渋谷区)だ。同物件は同社の買取再販物件ブランド「UNLIMITED(アンリミテッド)」のシリーズ。東京・上北沢にある築36年のメゾネット物件をリノベした同物件のこだわりについて、リノベーション事業部リセールグループサブマネージャーの佐々木洋尚氏とデザイナーの原布慈子氏に聞いた。



▲築36年の物件をリノベした。テーマは「茶室のある暮らし」

▶階段の下から見上げると、ガラス越しに茶室をのぞくことができる



「和をほんのり散りばめて関係性を保たせています」
さらに、下階の洗面の下には石のタイルをさりげなく張ったと原氏は話す。「和をほんのり散りばめて関係性を保たせています」
同社の再販事業の特徴は、物件ごとのテーマとして暮らしの提案を設定すること。今回のテーマの設定は、物件の広さを生かしたオリジナリティのある暮らし方を提案するという考えからスタートした。原氏は「これだけの広さがある物件なので、空間のゆとりを生かして、生活にもゆとりのある暮らしを反映させよう」と。心を落ち着かせてくれる、かつこの家の顔になるものを作るところから茶室に行き着きました」と話す。

テーマは茶室のある暮らし

会社概要

社名: ニューユニークス
代表者: 白田英司
所在地: 東京都渋谷区
設立年: 2014年
従業員数: 33人
事業内容: 不動産事業やリノベーション事業など
会社全体売上高: 約14億円
リフォーム売上高: 約7億円